

動画解説まとめ 48 / AI活用

AIとLINEをつなぐ 自動応答の仕組みと作り方

LINE・Google Apps Script・OpenAIをつなぐ実演から、自動返信の流れを整理。自分の情報を使う返信と占いボットの例を通して、準備・接続・確認の要点をまとめました。

この動画の要点

LINEへ届いた質問をAIへ渡し、返答をLINEへ戻す仕組みを作る動画です。まず用意されたコードで応答を試し、次に自分のプロフィールを使う返信、最後に入力項目を定めた占いボットへ進みます。大切なのは、返信の自動化をどの相談やサービスへつなげるかを先に考えること。動画中のサンプルコード全文は字幕に含まれないため、本資料は構築の流れを見返すガイドとして整理しています。

01 LINEは質問を受け取る窓口、Apps Scriptは処理の中継、OpenAIのAPIは返答を作る役割。

02 最初に自動返信を試し、その後でプロフィールや目的を入れて内容を調整する。

03 AIが自然な文章を返しても、本人の経験や事実まで正しいとは限らない。

04 入力項目を決めると、利用者が何を送ればよいか伝えやすくなる。

05 自動返信が動くことと、集客や売上につながることは別に確認する。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：AI副業で月収100万円稼ぎたいなら...！LINEの自動化でお金を稼ぐ方法超初心者向け徹底解説！【チャッピー】【チャットGPT】

<https://www.youtube.com/watch?v=HpuOdQ-CE8M>

1. LINEの質問を、AIへ届けて返す仕組み

動画の該当箇所 4:19 / タップして開く

普段は人が読んで返しているLINEのメッセージについて、その間にプログラムとAIを入れるのが今回の仕組みです。LINE Messaging API、Google Apps Script、OpenAIのAPIという三つをつなぎます。動画ではGoogle Apps ScriptをGASと呼び、プログラムを置いて動かす場所として説明しています。

利用者がLINEへ送った質問は、設定した送信先へ届きます。そこでプログラムがAIへ質問を渡し、生成された返答をLINEへ戻します。利用者から見るとLINE上で会話していますが、その裏側に受信・文章生成・返信という処理があります。

冒頭には恋愛相談の事例が登場します。AIが相談へ返答し、さらに詳しく相談したい人を本人の受付先へ案内する使い方です。紹介された売上は別の実践者の事例で、この動画の手順をなぞっただけで同じ売上になるという意味ではありません。

- ・ 入口：LINE公式アカウントへ届くメッセージ。
- ・ 処理：GASからOpenAIへ内容を渡し、返答を受け取る。
- ・ 出口：LINEで返答し、目的に応じて相談先や発信先を案内する。

2. アカウントと接続に必要な情報を準備する

動画の該当箇所 5:28 / タップして開く

動画で準備するのは、GASを使うGoogleアカウント、OpenAIのAPIキー、LINE公式アカウントです。

OpenAI側では設定画面から新しいキーを作る操作を示しています。APIキーはAIを外部のプログラムから利用するための情報であり、他人へ見せないよう注意しています。

LINE公式アカウントを作った後、設定からMessaging APIを有効にします。続いてLINE Developers側で対象のアカウントを開き、Messaging API設定からチャンネルアクセストークンを発行する流れです。OpenAIのキーとLINEのトークンは、別のサービスへ接続するために使い分けます。

動画ではこれらを後でコードへ設定できるよう控えています。資料へ自分のキーを書き込んで配ったり、共有用のスクリーンショットへ映したりしないようにします。アカウント作成や設定画面は動画時点の実演なので、現在の画面が異なる場合は各サービスの案内を確認してください。

- ・ Googleアカウント：プログラムを置くGASを利用する。
- ・ OpenAIのAPIキー：AIへ処理を依頼するために使う。
- ・ LINEのチャンネルアクセストークン：対象のLINEへ応答するために使う。

3. まずは一往復の自動返信を試す

動画の該当箇所 11:38 / タップして開く

最初の練習では、動画の説明欄から案内するマニュアルのサンプルコードを使っています。GASで新しいプロジェクトを作り、コードを貼り付け、用意した二つの接続情報を該当箇所へ設定します。貼り付け時に文字列を囲む記号を消したり、途中へ不要な改行を入れたりしないよう説明しています。

次にウェブアプリとしてデプロイし、表示されたURLをLINE側のWebhookの送信先へ設定します。

Webhookは、届いたメッセージを処理先へ送るための接続として説明されています。動画では権限の確認画面も通っていますが、実際に許可する際は自分が用意したプログラムと要求される内容を確認する必要があります。

接続後にはLINEで質問し、返答を確かめています。あべさんのプロフィールを入れた試作では趣味への回答が返り、指定した口調も反映されました。ただし、その後のビジネスに関する回答がどこから来たかについては、登壇者も推測を述べています。AIがインターネットを検索したと確認されたわけではありません。

この資料にはコード全文を収録していません。実際に試す際は、元動画の説明欄で案内されるコードと該当場面を確認してください。

- ・ 用意したコードをGASへ配置し、接続情報を設定する。
- ・ デプロイした処理先と、LINEのWebhook設定を対応させる。
- ・ LINEから短い質問を送り、返信の内容まで確認する。

4. 自分の情報と、案内したい先を決める

動画の該当箇所 18:38 / タップして開く

次の段階では、既存コードをそのまま使う方法から、自分の目的に合わせたコードをAIへ作ってもらう方法へ進みます。依頼にはGAS上で動くこと、LINEとOpenAIをつなぐこと、誰の情報を使ってどんな返信をしたいかを入れています。

実演では、登壇者本人が答えたプロフィール項目を材料にします。名前だけでなく、経験や考え方を入れることで、自分の発信に近い内容へ調整する考え方です。返信の最後にはSNSの案内を入れる方針も設定し、書籍や有料記事などへの応用も話しています。

変更後に学歴について質問すると、入力した情報に加えて、AIが進学理由を補ったような文章も出ています。自然に答えることと、本人の事実だけで答えることは一致しません。自分の代わりに返す用途では、試しに会話して、与えていない経験や約束を作っていないかを見ることが大切です。

動画では変更のたびに新しいデプロイを作り、URLも貼り直しています。編集部補足として、Google公式には既存のデプロイを新しいバージョンへ更新し、URLを維持する方法も案内されています。『変更すると必ずURLが変わる』という一般則ではありません。

- ・ 入れる材料：自分のプロフィール、経験、口調、回答したい内容。
- ・ 決める目的：相談受付、SNSの案内、商品や情報への導線など。
- ・ 確かめる内容：返答の事実関係、案内先、設定変更の反映。

5. 入力項目を決めて、特定の用途へ応用する

動画の該当箇所 26:16 / タップして開く

三つ目の例は、四柱推命を題材にした占いポットです。生年月日、生まれた時間、知りたい内容を受け取り、それに応じた文章を返すものとして依頼しています。自由な質問だけにせず、利用者が何を送ればよいかを入力形式で示す工夫が紹介されています。

挨拶メッセージなどで入力の仕方を伝える案も出ています。利用者に必要な項目を先に知らせることで、何を入力するか迷いにくくなり、作る側も想定した材料で処理を試せます。占い以外にも、質問の整理や学習の補助などへ応用する話があります。

実演では返答が届いたことは確認できますが、登壇者は占いの専門家ではなく、計算や解釈の正しさまでは検証していません。『AIは計算を間違えない』という説明を保証として扱わず、ここで確認できる成果は、入力を受け取り、用途に合わせた文章を返す試作が動いたことです。

- ・ 利用者へ伝えること：何を、どの順番で送るか。
- ・ 作る側が決めること：受け取った情報から、どんな文章を返すか。
- ・ 別に確かめること：回答の正確さと、実際の相談に使える品質。

6. 既存の活動の、どの手間を減らすか考える

動画の該当箇所 36:28 / タップして開く

終盤では、AIで目立つ作品を作ることに加え、既存の活動を効率化する価値が語られます。相談へ初期回答を返す、発信先を案内するなど、これまで人が繰り返していたやり取りへ使う考え方です。既にあるサービスと組み合わせると、何を自動化したいかを決めやすくなります。

動画では少額の利益を積み上げる計算も登場しますが、仮定に基づく説明で、今回作ったポットの売上実績ではありません。API費用も動画中の条件による例なので、固定の料金として使いません。実際には利用するモデル、入力と出力、利用量などを踏まえて費用を確認します。

雑談では、期待と違うプログラムができた時に、コードを直接直すだけでなく、AIへ渡す依頼を見直して作り直す方法も話しています。完成したように見えて終わらせず、目的に合う応答になっているかを試し、依頼と結果を往復して改善する姿勢が参考になります。

- ・ まず一つ、自動化したい質問や案内を選ぶ。
- ・ 動作確認では返信の有無だけでなく、内容と案内先を見る。
- ・ 利用状況、費用、相談や申込みへのつながりを別々に把握する。

実践の進め方

01 用途を一つ決める

相談の初期回答や、自分の発信先の案内など、LINEへ届いた質問に何を返したいかを決めます。

動画 2:48

02 三つのサービスを準備する

Googleアカウント、OpenAIのAPIキー、LINE公式アカウントとMessaging APIの設定を準備します。キーやトークンは他人と共有しません。

動画 5:28

03 サンプルの接続と応答を試す

元動画から案内されるコードを確認し、GASの処理先とLINEのWebhookを接続します。短い質問を送り、その質問への返答が届くか試します。

動画 11:38

04 自分の材料へ置き換える

プロフィールや口調、案内先を指定して調整し、本人の事実でない内容をAIが補っていないか、会話をして確認します。

動画 19:32

05 必要な入力と返答を整える

用途に応じて入力項目を決め、利用者への案内と返答を試します。期待と違う時はAIへの依頼も見直します。

動画 28:53

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部の活用例】この資料を根拠に、私が試したいLINE自動応答の設計を手伝ってください。記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めてください。届けたい相手、今受けている質問、AIに答えさせたい範囲、人へ引き継ぐ相談、案内先を聞いてください。回答後に、必要な入力項目、返答の方針、動作確認で試す質問を整理してください。本人の経験や成果を創作せず、キーやトークンの貼り付けは求めないでください。資料に含まれない元コードを復元したとは言わず、実装の追加提案は別に示してください。

資料について

- ・ 日本語自動字幕に基づく構築実演の要約です。元動画の別配布コード・人格作成フォーム・プロンプト全文は収録していません。
- ・ 紹介された収益は個人の事例です。占いの正確さや、試作ボットでの売上を検証した資料ではありません。
- ・ 編集部補足（2026-10-12確認）：URLを維持する更新方法はGoogle公式『デプロイの作成と管理』を参照。
<https://developers.google.com/apps-script/concepts/deployments?hl=ja>
- ・ 一般向けの運用へ進む場合は、Webhook送信元の検証を含めて確認してください。編集部補足（2026-10-12確認）：LINE公式『Webhookの署名を検証する』
<https://developers.line.biz/ja/docs/messaging-api/verify-webhook-signature/>